

No.42 難しいと思ったこともすぐに投げ出さずに取り組もうとする。
No.43 クラス全体での活動をみんなで楽しむ。 …元気な子ども…

こま回し がんばるぞ！ お正月遊び大会に向けた取り組み 1月

☆ **これまでの経過** ☆

- 毎年1月末に計画しているお正月遊び大会に向けて、こま回しを活動に取り入れた。大会に向けて自由遊びやクラスでの活動でこまが回せるようにと練習をする姿が見られる。
- こまを回せる子は何回、回ったかを数えたり、友だちと回っている時間を競い合ったりしているが、中にはなかなかうまく回せない子もあり、練習を躊躇している様子も見られる。

☆ **接続期の状況** ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<ul style="list-style-type: none"> • 「やりたい、やりたい。」「前もやったことある！」「前のみどり組さんもやってたよね。」という声があがる。 A男：うまく回らずに、だんだんあきらめかけてきた様子。 • 保育者の言葉とA男の様子から、A男と仲の良いB男が駆け寄ってきた。 B男：「このこま、すごく回るから使ってみて。」 「一緒にやろうよ。」 と、A男を誘いかけたり、こまを選んであげたりしている。 A男：「わかった。待ってて。」とひもを巻き始める。 • 巻こうとするが、うまくいかない…。 C子：「今はできなくても、次にできるようになるかもよ。」 • 「うん。」とうなずきくり返しひもを巻いて挑戦しようとするA男の姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「今度、お正月遊び大会があるんだ。」と知らせ、意欲的に取り組めるようにする。 • 一日の活動の中に毎日取り入れながら、友だちの様子を見たり、友だちとかかわったりしながら遊べるようにする。 • 難しい、できないという思いからおもしろさや楽しさにつながっていないと感じ、「どうすれば回るのかな～？」など、傍に居る友達からコツを聞きだしながら、Aを応援する。 • A男の姿に気づき、応援したり励ましたりしてくれる仲間存在にA男自身も気付けるようにする。 • 仲の良いB男が寄り添ってくれることが嬉しく、意欲につながっている。 • 保育者もA男を応援しながら、友だちと一緒にこまを投げ合う一体感が味わえるよう、掛け声の出し方やタイミングを相談する場を設ける。
<p>友だちや保育者の応援の中で、挑戦してみようとする姿が見られた。 友だちとの心地良い体験が、あきらめずにやってみようという気持ちにつながっていると思われる。</p>	

☆ **接続期の指導場面における配慮事項** ☆

自分だけでは不安でためらってしまう事でも、友だちとのかかわりを通して心が揺さぶられる。一つの遊び、また同じ目的に向かって遊びを進める中で、友だちの姿や言葉が意欲や心の支えとなる。友だちとのかかわりから、心が揺さぶられた場面を、保育者が拾い上げ共感し、褒めたり認めたりする事が大切である。また、自分たちで遊びを進めている時には、その状況を逃さず、かかわりから育つであろう姿に見通しを持ちながら見守る事、そして、その遊びや活動が日々継続して行えるよう配慮していきたい。